



クローズアップ  
CLOSE UP

美しいバラが園内彩る

敷島公園ばら園では6月10日(日)まで春のばら園まつりを開催しています。初日には先着300人に前橋産切りバラの配布があり、美しい花を求めて長蛇の列が。園内の各所でさまざまな種類のバラが咲き誇り、訪れた人は自分好みの色や香りを探し歩きました。



朔太郎の魅力色あせず

5月12日に昌賢学園まえばしホールで朔太郎忌を開催。第一部のシンポジウムでは、萩原朔太郎の作品の色あせない魅力や価値などが語られました。第二部では朗読劇を実施。現代の若者や家族の物語に朔太郎の対話詩を織り込んだ世界を声で表現しました。



ICT活用さらに推進

5月10日、地域課題の解決にICTを活用するため、本市はNTTドコモと連携協定を締結しました。締結式後は、NTTドコモ代表取締役社長・吉澤さんが次世代移動通信「5G」の可能性と実例を400人に講演。また、市役所にはAI運行バスが展示されました。

「前橋を拠点に活動を始めたのは、まちなかにあった国際交流広場ホールで、こけら落とし公演の演出を手掛けたことがきっかけでした」  
高校の部活動で演劇を始め演技や演出を学んだ後、東京の劇団で活動。帰郷後、市内の数々の公演に関わっている。「前橋の演劇文化は国内でも一番に近いくらい盛んではないでしょうか。舞台を見るのに必ずしも東京に行く必要はありません。むしろ、東京から観に来てもらうことができると考えています」  
これまで上演された市民ミュージカル2作にも、舞台監督として携わった。

「市民ミュージカルは生涯学習の面が強いと思います。ダンスやお芝居などを難しく感じて、みんなので一つのことを成し遂げて、やってよかったと思える経験になる。培ったものは次につながります」  
さまざまな団体の活動を手弁当でも支えたいと話す坂川さん。自身も高校時代、周りの人々に支えられ活動したことがその原動力になっている。「前橋の演劇の基礎力が上がれば、高校生の俳優になりたいという夢がリアルになると思います」  
かつての自分を重ね、若者の夢と前橋の演劇文化を支え続けていく。

若者が舞台に夢を見るために

いきいき  
まえばし人  
市民ミュージカル「鎮魂華」で  
舞台監督を担当  
坂川 善樹さん・45歳  
岩神町三丁目



この学科では、公共的なものづくりと環境整備を柱に、橋や道路の建設、地盤、防災、水環境づくり、都市計画や景観を整える技術などを学んでいます。私たちはその中で地盤を専

前橋工科大は、科学と工学で生活を快適に、安全に、そして持続可能にすることを目指しています。このコーナーでは、日々行っている研究内容や暮らしに役立つ豆知識を各学科から紹介。今回は社会環境工学科の土倉泰教授(写真左)と森友宏准教授(同右)がお届けします。

暮らしに密着  
工科大 LABO  
Vol.1  
閩前橋工科大  
☎ 027-265-0111  
今回は  
社会環境工学科です

地盤を知ることは、防災にもつながります。皆さんは自分が住む土地の性質を知っていますか。例えば、かつて利根川が東西に流れていた前橋の中心市街地は坂道になっています。こうした高低差は洪水被害に影響します。他にも、地盤沈下に注意しなければならぬところも。このように土地の特徴を把握することで、災害時は何に注意すべきなのか、どのように建物を建てたら安全なのかなどが見えてくるのです。

地盤は、その上で暮らす人や建物、道路など全ての土台となるものです。地盤を研究することは、前橋の風景や街並みを守るための研究ともいえるかもしれません。

今回は、建築や環境、都市デザインなどを研究している建築学科からお届けします。

門にしていて、土地の面から誰もが安心して住める環境を作っていく技術などを研究しています。

地盤を知ることは、防災にもつながります。皆さんは自分が住む土地の性質を知っていますか。例えば、かつて利根川が東西に流れていた前橋の中心市街地は坂道になっています。こうした高低差は洪水被害に影響します。他にも、地盤沈下に注意しなければならぬところも。このように土地の特徴を把握することで、災害時は何に注意すべきなのか、どのように建物を建てたら安全なのかなどが見えてくるのです。



液化現象なども研究しています